

広報



No. 173

昭和62年11月15日

発行・編集 国見町企画課

お
も
な
内
容

町政功労者を表彰.....	2
阿部重男さんに県知事表彰.....	3
佐藤・後藤さんに防犯功労者表彰.....	4
宝槻さんは防犯作文で第2位	
あいさつ道路ができました.....	5
昭和63年成人者.....	6
ふるさとの文化財.....	7
おしらせ.....	8~9
公民館だより.....	10~11
わ だ い.....	12



'87
11月

株式会社マーブル・ニット国見工場

阿部順子さん (20歳) (藤田宇南30 芳男さんの長女)

マーブル・ニット国見工場は、昨年12月に創業し、婦人ブラウス、スカートなどをレナウン、オンワード樫山などに出荷しています。現在社員は24人で、今後、あと20人ぐらいは増やしたいとのこと。

阿部さんは、今年4月に入社、縫製部門を担当しています。「すごく明るくて、楽しい職場です」という彼女。ドライブが趣味で、休みの時は遠乗りをするという、活発なお嬢さんです。

町政功労者を表彰

祝国見町表彰式



吉田議員ら

二十一人が受賞

昭和六十二年度の町表彰式が、菊薫る十一月六日、町公民館で行われました。

これは、町表彰規定により、政治、経済、産業、文化、社会など町政各般にわたって、町の発展に尽くされた方々を顕彰するもので、今年で二十一回を迎えました。

今年、功労表彰として、町議会議員の吉田久男さん、前町議会議員の鈴木義光さんら十五人が受賞、善行表彰は、部落会長の吉田稔さん、人命救助の山田久子さんら六人が受賞しました。山田さんは、六月五日、観月台公園の池で溺れた児童を救助したものです。

町発展のため、それぞれの分野で尽力されてきた受賞者一人ひとりに町長職務代理者の八島助役から表彰状と記念品が贈られました。

受賞者を代表して吉田さんが、「栄えある賞をいただき、大変光栄です。今日の感激を肝に銘じ、今後も町発展のため努力いたします。」と謝辞を述べて表彰式を終えました。

受賞者の皆さんの功績を称えるときにも、今後も引き続き国見町発展のためご尽力くださるようお願いいたします。

受賞された方々は次のとおりです。(敬称略)

功労表彰

善行表彰

- ▽吉田 久男 (町議会議員)
- ▽鈴木 義光 (前町議会議員)
- ▽佐藤 力 (町議会議員)
- ▽松浦 長明 (町議会議員)
- ▽吉田 進 (農業委員)
- ▽佐藤 丈男 (農業委員)
- ▽吉田喜八郎 (消防団員)
- ▽鈴木 正夫 (消防団員)
- ▽吉田喜八郎 (消防団員)
- ▽高橋 忠一 (消防団員)
- ▽遠藤 剛 (消防団員)
- ▽菊地 春七 (消防団員)
- ▽吾妻 正子 (町職員)
- ▽谷津 富夫 (町職員)
- ▽後藤 澄雄 (町職員)
- ▽武田 友江 (町職員)
- ▽吉田 稔 (部落会長)
- ▽高橋 昇 (納税貯蓄組合長)
- ▽斎藤喜代太 (納税貯蓄組合長)
- ▽佐藤 六助 (納税貯蓄組合長)
- ▽佐藤 善蔵 (納税貯蓄組合長)
- ▽山田 久子 (人命救助)

阿部重男さんに県知事表彰

統計功労者として

十月十九日、郡山市で第三十七回の県統計大会が開かれ、その席上、町統計調査員協議会副会長の阿部重男さん（藤田）が、統計功労者として県知事表彰を受けました。

阿部さんは、統計従事歴三十一

年の大ベテラン調査員で、町内での知事表彰は、鴨田清作さん（内谷）、佐藤長寿さん（西大枝）に次いで三人目の受賞です。また、県統計協会会長表彰に、菊地春七さん（塚野目、統計従事歴十年）が、長年の努力が認



▲友田副知事から表彰を受ける阿部さん

められ受賞しました。

さらに、統計グラフコンクール入賞者表彰も行われ、小学校低学年の部で、小坂小学校二年の原田秀明君の「アリの大こうぶつしらべ」が県教育長賞に、また、同小一年の高原憲二君の「アにミインター くるまのだいすうしらべ」と、同小三年の



▲左から遠藤綾子ちゃん、安孫子さとみちゃん、鴨田清敏君、原田秀明君、高原憲二君

鴨田清敏君、安孫子さとみちゃん、遠藤綾子ちゃん三人合作の「ものじゅれいとすぐつてのこす数しらべ」が、それぞれ県統計協会会長賞を受賞しました。なお、学校賞としても小坂小学校が、四年連続して優秀校に輝きました。

このコンクールは、統計に関心を持ってもらおうと福島県が毎年実施しているもので、日ごろの私たちの身の回りの動きを、統計的にとらえ、具体的にグラフで表現し、人々に訴えるのが統計グラフです。小学生以上の方なら、どなたでも応募できます。ぜひ、来年もどしどし応募

してください。
統計グラフコンクールの入賞者は次のとおりです。（敬称略）

（小学校低学年の部）
◆教育長賞
原田 秀明（小坂小二年）

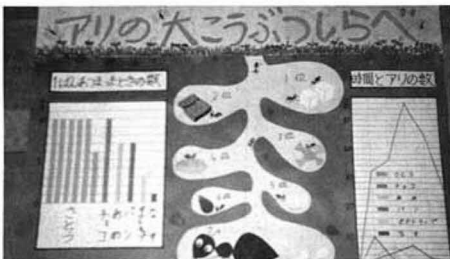
◆統計協会会長賞
高原 憲二（小坂小一年）

鴨田 清敏（同 三年）
安孫子さとみ（同 三年）

遠藤 綾子（同 三年）

（小学校高学年の部）
◆努力賞

佐藤 光子（大木戸小五年）
大沼 美妃（同 五年）



▲教育長賞を受けた原田君の作品



▲後藤昌伸さん



▲佐藤忠美さん

佐藤忠美さん 後藤昌伸さん 宝槻久美子さんは防犯作文で第二位 (森江野小五年)

愛車へのいたわり示すドアロック、防犯は日ごと家ごと地域ごと——をスローガンにした全国防犯運動県中央大会が、十月十五日、須賀川市文化センターで開かれました。

大会の席上、防犯功労者表彰として、町防犯協会藤田支部長の佐藤忠美さんと、同じく大枝支部長の後藤昌伸さんが表彰されました。

また、防犯作文の小学生の部で、森江野小学校五年の宝槻久美子さん(徳江字番匠田八の二)の「カギをかけよう」が、見事第二位に選ばれました。

宝槻さんの作文は、桑折地区防犯協会連合会の作文コンクールでも最優秀賞に選ばれており、二重の受賞となったものです。

十月二十日、森江野小学校で、大竹英智校長から宝槻さんに、賞状と記念品が全校生徒の前で手渡され、この快挙を全校生徒で喜び合いました。



▲大竹校長から賞状と記念品を受ける宝槻さん

「かぎをかけよう」

森江野小五年

宝槻久美子

毎日、テレビや新聞などを見ていると、ほんとうに暗いニュースばかり目に入って来ます。たとえば、ついこの間、福島県信夫山の近くでおこった、殺人事件ですが、この時も新聞やニュースなどで、大きく報道されていました。この時、お母さんもいっしょに見ていて、「なんだったかわいそうに、カギをなからせておけば、こんなことにならないですんだのに、ほんとうにこわい世の中になったんだねえ。お母さんら小さいころ、カギなんかかけなくても、なにも心配なかったのに……; もちろんろくなカギなんかかかたければね。」

という話をしてくれました。この事件は、カギをなからせておけば殺されないですんだかと思うと、かわいそうでなりました。

せん。とくに、残された小さな二人の子供たちのことを考えると、とても残念です。もし、私がお母さんが殺されてしまったらと考えたら、どうしたらよいかわからなくなりました。

私の家では、夏の夜、むし暑くてなかなか寝れないとき、あみ戸だけでカギをかけたことのあることが時々ありました。しかしあの事件を知ってからは、ちゃんとかぎをかけてねるようになりました。

それに、私たちの地区では、毎日夜九時近くになると、消防団の人たちが消防自動車、消防団「チリン、チリン、戸じまり、火のしまつ、車のドアロックを忘れずに。」

かならず見回りに来てくれます。そんな時うちのお母さんが、もう一度、全部カギがかかっているか見回りをするので、私も時々お手伝いをします。私の家は、となりの家とかなりはなれているので、特に心配です。それから、消防団の人たちってほんとうに大変なんだなあ、火事の時はばかりでなく、こうした夜おそくまで私たちがみんなのために、いっしょうけんめい働いてくれるのだと思うと、ほんとにありがたいと思う気持ちです。それで、この機会に私の家には、何個のカギがあるのか調べてみました。なんと38個もあったので、びっくりしてしまいました。この38個のうち、一カ所でもかかれぬカギがあれば、信夫山の事件みたいなことわくわくしてしまいます。あらためてカギのじゅうようさを知りました。どうしたら明るい世の中になるのか、カギをかけたいても安心してねられる世の中にならんのかなあと心から思いました。

吉田さん 古川さん 菊地さんに感謝状

十月二十六日、福島市の杉妻会館で、福島地区納税貯蓄組合連合会創立二十周年記念式典が行われました。

その席上、前町納税貯蓄組合連合会長の吉田勝由さんと、町納税貯蓄組合事務局の税務課職員、古川比司さん、菊地軽子さんの三人に、福島地区連合会長から感謝状が贈られました。

この感謝状は、永い間納税貯蓄組合の育成指導と、納税思想の高揚に尽力された功労が認められ、今回の受賞となったものです。



▲感謝状に手に喜びの左から古川さん、吉田さん、菊地さん

「あいさつ道路」が できました

「あいさつ」の声で青少年の健全育成と明るいマチをつくろうと、町内四カ所にあいさつ道路が誕生しました。

あいさつ道路のオープン式は、十月二十六、二十七日の両日、町内四カ所のあいさつ道路内で行われました。

このあいさつ道路は、国見ライオンズクラブ(樋口久弥会長)が計画、家庭、学校だけでなく、街頭でのあいさつの習慣を大人、児童生徒を問わず呼びかけ、青少年の健全育成と共に明るいマチづくりをしよう」と、町内の各種団体に呼び掛け、町内四小学校の通学路を中心に設定され



▲藤田小学校前でのテープカット

ました。

標語は、各小学校の児童から募集、四校から計八百四十点もの応募があり、大木戸小一年の阿部和洋君の「親も子も一進ん

でします あいさつを」など七十二点が入選作に選ばれました。国見ライオンズクラブでは、

入選作品をすべて看板にしてあいさつ道路沿いに立てる予定で、すでに半数以上が設置されました。子供たちの反応も上々で、登下校時にはすれちがう人たちに「おはようございます」「こんにちは」など、大きな声であいさつをしています。



▲あいさつ道路を登校する子供たち(森江野地区)

表 彰 状 佐藤善次郎さんに



佐藤善次郎さん

県内の緑化推進に功労のあった佐藤善次郎さん(小坂字小坂三七八十五歳)が、県内ではただ一人、東北・北海道地区緑化推進協議会表彰に選ばれ、十月九日、自宅に表彰状が届けられました。また、全国緑化推進協議会長から感謝状も合わせて受賞されました。

佐藤さんは、昭和二十四年、小坂財産管理委員長に就任して以来、森林資源の維持育成に努めています。さらに、昭和三十七年森林を基本財産とする奨学資金貸付制度の創設に尽力し、管理会委員長、貸付審査会委員長として現在も活躍され、また、町森林組合長、県北地方造林協会会長、福島森林組合長など数々の要職も歴任、現在も福島森林組合副会長理事として活動を続けています。

岩城彰朗君

(福島農蚕高三年)

のチームが見事日本一



岩城 彰朗君

十月二十九日に閉幕した第三十八回日本学校農業クラブ全国大会の測量競技・平板の部で、福島農蚕高チームが日本一の最優秀賞に輝きました。このチームは、藤田字南一六

石原晃雲さんに 福島信用金庫に感謝状



石原 晃雲さん

十月十五・十六の両日、県社会福祉大会が、原町市で行われました。この席上、社会福祉事業寄付者として、個人で石原晃雲さん、

の岩城彰朗君(農業土木科三年)をはじめ、斎藤勝土君(川俣町)、佐藤行紀君(安達町)の三人で、測量競技の部で県内初の最優秀賞を得、合わせて文部大臣奨励賞も受賞しました。

競技は、十月二十八日福島農蚕高で行われ、各都道府県の代表が出場、地形の面積をいかに早く正確に測るかを競い合う競技で、岩城君らのチームは、測量の結果にほとんど誤差がなく、最高の成績を収めました。

「父母の暖い支援と、遠藤正義美先生のご指導、チームの和で日本一に出来ました」と岩城君は感激を話してくれました。



阪内福信国見支店長

団体で福島信用金庫が、それぞれ、大会会長から感謝状が贈られました。

石原さんは、桑折町の特別養護老人ホーム「あつかく荘」に自作の絵画を寄贈してくださいましたので、また、信用金庫、町社会福祉協議会に多額の寄付をしてくださいましたものです。

昭和六十二年成人者

来年一月十五日成人式



来年一月十五日の「成人の日」には町の成人式が行われます。対象者は、昭和四十二年四月二日から四十二年四月一日までに生まれた方で、町内在住者です。ただし、希望すれば町出身の町外在住者でも参加できます。早めに教育委員会に申し込みください。☎八五二二一一

十一月一日現在の予定者は次のとおりです。氏名に誤りや記載もれがあればお知らせください。

(敬称略)

●藤田地区 72名

秦 美紀 石川 正典
鈴木 真由美 松浦 和則
八巻 和幸 山崎 純子
長田 健一 高木 ゆかり
鈴木 静 田村 徹
國井 朋子 後藤 浩和
菅野 雄一 奥山 美和
佐藤 武好 中村 裕子
佐藤 千瑞子 牧野 純子

長谷川 弘幸 菊地 羊子
佐藤 公彦 鈴木 直美
佐藤 秀樹 舟山 徹也
佐久間 良子 阿部 美佐也
後藤 さとみ 神部 誠
内村 等 安達 誠
佐藤 誠一 南 正嗣
志賀 幸子 佐藤 裕
田口 知之 阿部 勝吉
田戸 浩寿 阿部 誠
菊地 恵美子 松浦 雅孝
松浦 弘幸 園分 政勝
菊地 豊 菊地 晴美
村上 真一 高橋 明見
高橋 康典 佐藤 秀二
吉藤 真由美 吉田 賢二
高橋 由美子 阿部 深雪
後藤 さつき 山口 博之
紺野 春美 小林 美由紀
中澤 明子 菊地 宏子
宗川 由美子 田村 清春
篠田 いづみ 齋藤 和子
佐藤 昌男 中山 美和子
稲村 貴史 菅野 善博
近野 隆志 齋藤 一弥
佐藤 美名子 山田 桂子

●小坂地区 26名

横山 勉 奥村 則男
安藤 俊之 佐藤 弘美
阿部 美奈子 田中 博之
阿部 利家中 村 広美
佐藤 啓八 巻 文子
佐藤 尚 菅野 秀人
安積 直樹 菅野 久美子
佐藤 雅恵 高野 武志
遠藤 雅恵 後藤 隆史
高野 輝男 高原 健樹
鴨田 美由紀 赤坂 勝江
新村 昌樹 菅野 和久
本田 由紀子 本田 ゆきえ

●森江野地区 35名

谷津 浩子 佐野 豊和
大津 洋子 佐久間 泉
佐藤 朋子 佐藤 雄治
吉田 まゆみ 吉田 長一

●大木戸地区 14名

大河原 忠 阿部 里久
齋藤 長一 松田 祥子
古山 智靖 高橋 富士子
村上 美加 高木 恵理子
松浦 弘 松浦 雄一
菊池 麻美 松崎 咲子
渡部 広美 彦坂 朱美

●大枝地区 6名

松浦 政浩 佐藤 洋子
小野 晴美 太田 智子

「高齢者健康づくり教室」が開催される

町保健課と町健康づくり推進協議会では、十月十九・二十一日の二日間、福島市社会教育指導員の佐藤キイさんを講師に、「高齢者健康づくり教室」を町民体育館で開催しました。

教室には、延べ八十人の受講者が訪れ、座りながらできる簡単な体操や、音楽に合わせた柔軟運動、肩こりや腰痛を治す体操などをこなすかに行っていました。

また、昔にかえってのフォークダンスなどもあり、受講者の皆さんは、心地よい汗をかきながら楽しんでいました。



▲好評だった健康教室

ふるさとの文化財

44

山崎城

菊池利雄



山崎城要図
『山崎村地籍図』
によって作成した

山崎氏の居城と伝えられる山崎城は、山崎の字館・中島の地に位置し、北側には、山崎山の南麓を瀧川が東流し、南側はそ

の旧河道路跡の湿地帯。城はこれらに挟まれた微高地（標高八十九㊦）上にあつて、周辺地は古代以来の条里水田遺構地で、一町田などの地名も残されてお

り、開発の歴史は古い。明治の『山崎村地籍図』町界と現地踏査による城の規模は、一辺が百五十㊦とする略方形の複郭式平地館である。本郭は東西約七十五㊦・南北約六十五㊦、幅が約四十㊦・高さが約七㊦の土塁がめぐられ、虎口（出入口）は東側の中央部に開かれていた。本郭の北・東・南側を取り囲むような形で、外郭が築かれていたが（山崎区有文書）、土塁・水濠などの遺構は、宅地や畑地となつて現存しない。堀水は瀧川から引き入れられていた。（伊達）城主は天文二十二年（一五五三）の『伊達晴宗采地下賜録』にみられる、山崎藩七の系譜のもので、伊達氏譜代の家臣とみられる。天文年間、伊達種宗と晴宗父子が相争つた天文の乱において、彦七は同族の山崎彦兵衛と伊達晴宗に味方し、乱後山崎郷にある満福寺分や、館の西にある野田六郎の所領前館在家などが、加恩地として下賜されている。また、刈田郡津田郷（現宮城）にも山崎氏は所領が

あつて、山崎隠岐（山崎彦七の四）が天神館に住したと、仙台藩の津田村風土記御用書上（七三三）に「彦七」にあり、山崎なる地名も残されている。天正四年（一五七六）八月、伊達輝宗の相馬盛胤との戦いにおいて、山崎丹後は近郷の中目・中島・桜田・間柳の諸氏と陣を組んで出陣しており（鶴岡公評、同十六年の『伊達政宗日記』にも米沢城に司候する諸將の接待に、政宗の側近として相伴している。天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の奥羽仕置により、伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城に移封、山崎氏もこの郷を去つて山崎城は廃城となつたが、移住先は明らかでない。

元和元年（一六一五）政宗の庶長子伊達秀宗は、徳川家康から伊予国宇和島（現愛媛）に十萬石を拝領して入部、政宗は桑折景頼・山家公頼・桜田玄藩などとともに、山崎・原田氏など五十四騎衆とよばれる、家臣を付けて従がわせた。同四年の『宇和島藩分限帳』には山崎治部少輔（千石）がみられる。城跡には最近まで、本郭の土塁と水濠が残されていたが、現在は埋め立てられて、北西隅の稲荷神社と西側土塁の一部に痕跡をとどめているにすぎない。

あつて、山崎隠岐（山崎彦七の四）が天神館に住したと、仙台藩の津田村風土記御用書上（七三三）に「彦七」にあり、山崎なる地名も残されている。天正四年（一五七六）八月、伊達輝宗の相馬盛胤との戦いにおいて、山崎丹後は近郷の中目・中島・桜田・間柳の諸氏と陣を組んで出陣しており（鶴岡公評、同十六年の『伊達政宗日記』にも米沢城に司候する諸將の接待に、政宗の側近として相伴している。天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の奥羽仕置により、伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城に移封、山崎氏もこの郷を去つて山崎城は廃城となつたが、移住先は明らかでない。

あつて、山崎隠岐（山崎彦七の四）が天神館に住したと、仙台藩の津田村風土記御用書上（七三三）に「彦七」にあり、山崎なる地名も残されている。天正四年（一五七六）八月、伊達輝宗の相馬盛胤との戦いにおいて、山崎丹後は近郷の中目・中島・桜田・間柳の諸氏と陣を組んで出陣しており（鶴岡公評、同十六年の『伊達政宗日記』にも米沢城に司候する諸將の接待に、政宗の側近として相伴している。天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の奥羽仕置により、伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城に移封、山崎氏もこの郷を去つて山崎城は廃城となつたが、移住先は明らかでない。

あつて、山崎隠岐（山崎彦七の四）が天神館に住したと、仙台藩の津田村風土記御用書上（七三三）に「彦七」にあり、山崎なる地名も残されている。天正四年（一五七六）八月、伊達輝宗の相馬盛胤との戦いにおいて、山崎丹後は近郷の中目・中島・桜田・間柳の諸氏と陣を組んで出陣しており（鶴岡公評、同十六年の『伊達政宗日記』にも米沢城に司候する諸將の接待に、政宗の側近として相伴している。天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の奥羽仕置により、伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城に移封、山崎氏もこの郷を去つて山崎城は廃城となつたが、移住先は明らかでない。

あつて、山崎隠岐（山崎彦七の四）が天神館に住したと、仙台藩の津田村風土記御用書上（七三三）に「彦七」にあり、山崎なる地名も残されている。天正四年（一五七六）八月、伊達輝宗の相馬盛胤との戦いにおいて、山崎丹後は近郷の中目・中島・桜田・間柳の諸氏と陣を組んで出陣しており（鶴岡公評、同十六年の『伊達政宗日記』にも米沢城に司候する諸將の接待に、政宗の側近として相伴している。天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の奥羽仕置により、伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城に移封、山崎氏もこの郷を去つて山崎城は廃城となつたが、移住先は明らかでない。

あつて、山崎隠岐（山崎彦七の四）が天神館に住したと、仙台藩の津田村風土記御用書上（七三三）に「彦七」にあり、山崎なる地名も残されている。天正四年（一五七六）八月、伊達輝宗の相馬盛胤との戦いにおいて、山崎丹後は近郷の中目・中島・桜田・間柳の諸氏と陣を組んで出陣しており（鶴岡公評、同十六年の『伊達政宗日記』にも米沢城に司候する諸將の接待に、政宗の側近として相伴している。天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の奥羽仕置により、伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城に移封、山崎氏もこの郷を去つて山崎城は廃城となつたが、移住先は明らかでない。

あつて、山崎隠岐（山崎彦七の四）が天神館に住したと、仙台藩の津田村風土記御用書上（七三三）に「彦七」にあり、山崎なる地名も残されている。天正四年（一五七六）八月、伊達輝宗の相馬盛胤との戦いにおいて、山崎丹後は近郷の中目・中島・桜田・間柳の諸氏と陣を組んで出陣しており（鶴岡公評、同十六年の『伊達政宗日記』にも米沢城に司候する諸將の接待に、政宗の側近として相伴している。天正十九年（一五九一）豊臣秀吉の奥羽仕置により、伊達政宗は米沢城より大崎岩手山城に移封、山崎氏もこの郷を去つて山崎城は廃城となつたが、移住先は明らかでない。



固定資産評価審査委員に 安藤さんが再任

このたび、任期満了による固定資産評価審査委員に、安藤正重さん（73歳）Ⅱ小坂字木八丁八の七Ⅱが再任されました。任期は、昭和六十二年十月一日から三年間です。審査委員は、固定資産の評価など、固定資産税の運営のより一層の適正公平を期する趣旨から設けられているものです。

九月三十日で退任した玉手豊さん（中部）の後任に、横山市



教育委員に横山市郎さん

横山市郎さん（62歳）Ⅰ泉田字三津谷一Ⅱが十月一日付で教育委員に任命されました。任期は、昭和六十六年九月三十日までの四年間です。横山さんは、昭和六十一年三月に退職されるまで、四十余年の長きにわたる教員として勤められ、その間、県北中学校には二十一年間勤務されました。今までの長い教職経験を、町の教育行政に生かされるものと期待されます。



家族だけで悩まないために ボケ老人についての 巡回相談を 開催します

一、日時 12月3日(木)
午後1時30分～4時

二、会場 国見町公民館

三、内容

- ①専門医師による相談
- ②保健婦による介護指導
- ③介護経験者の体験談
- ④介護用品の展示

人間は、ボケてしまうと何とも感じなくなると思いがちですが、それは大変な誤解です。

ボケ老人にも、自尊心や、しゅう恥心があり、知的な心の働きは衰えても、感情は残っています。

ボケ老人が、日常どんな気持ちで過ごしているのかを知り、その老人の気持ちになって、いっしょに考えてあげることが、お年寄りをお世話するうえで大切

なことです。
お悩みの方は、ぜひご参加ください。
なお、本人と一緒に連れたいなどでも保健婦がお相手いたしますので、ぜひご出席してください。

※保原保健所では、毎月第二木曜日午後一時から専門医師による相談を行っています。

ルールを守って 楽しい狩猟

狩猟期間
11月15日～2月15日



ハンターの皆さん、待望の狩猟が十一月十五日解禁となります。

県内では、昨年の狩猟期間中、狩猟にともなう猟銃による事故が三件発生し、一人が亡くなり、二人の方が重軽傷を負っています。

事故の原因は、誤射、暴発によるものですが、いずれも狩猟の基本的なルールを守らなかつたために起きたものです。
ルールとマナーを守り、事故のない楽しい狩猟をしましょう。

◎狩猟をするときは

- 発射の際は、必ず前方(失先)の安全を確認し、安全が確認できないときは発射しないこと。
- 水平撃ちをしない。また竹林など跳弾のおそれのある場所では発射しないこと。
- 人家や人の気配がする方向には、絶対銃口を向けないこと。
- 実包は、発射の直前まで装てたら直ちに脱包すること。
- 歩行、休憩時には、銃を折っておくか、遊底を引いて機関部を開放しておくこと。

毎年、狩猟期間中に「散弾が庭に落ちてきて危険だ」「夜撃ちをしている」などの苦情が多く寄せられています。
ルールとマナーを守りましょう。

身体障害者 巡回相談会の お知らせ

身体障害者巡回相談会が、次の日程で開催されますので、補装具や住宅増改築などで困っていることがありましたら、ぜひご利用ください。

- 一、日時及び場所
昭和62年12月16日
10時～12時

特設人権相談所 開設のお知らせ

福島地方事務局、福島人権擁護委員協議会及び町では、左記のとおり無料特設人権相談所を開設いたします。

- 一、日時 12月7日(月)10時～15時
- 二、場所 町公民館(福祉センター)

- 学校、職場の問題
- 家族の問題
- 近隣関係の問題

相談内容はすべて秘密ですので、困りごと、悩みごとがありましたら、お気軽においでください。

◆年末調整説明会

今年も、年末調整を行う時期となりました。

「年末調整」は、給与の総決算ともいうべき大事な手続きです。

次の日程で年末調整説明会が行われますので、事業主(税務署から通知有)の方は、ぜひ、ご出席ください。

記

- 一、日時 11月24日(火)
午後1時30分

一、場所 桑折町福祉センター

昭和六十三年度 果樹農業構造調査に ご協力を

農林水産省では、我が国における果樹農業の経営構造に関する実態を明らかにして、果樹行

政上の基礎資料を整備するため、全国一斉に左記のとおり果樹農業構造調査を実施いたしますので、果樹栽培農家の皆さんには、特段のご協力をお願いいたします。

記

- 一、調査対象農家
りんご30a、その他果樹類を10a以上栽培している農家等
- 二、調査期日
昭和63年2月1日現在
- 三、調査方法
調査補助員による調査

※なお、この調査結果は、統計以外の目的には使用いたしません。

消防署から 協力とお願い

これからは、北風と共に空気が乾燥し、火災が発生しやすくなつてまいります。火の取扱いには十分注意され、火災の無い明るい町づくりにより、ご協力をお願いいたします。

十一月九日は、「一九九番の日」

です。今年から新たに、十一月九日を「一九九番の日」と設定されました。町民の皆さんにも、いざという時に、迅速適確な通報が出来るよう呼びかけております。消防署へ通報する際は、あわてず、正確な住所、氏名、電話番号、目標物を伝えることが、最も大切です。迅速、正確

な通報は被害を小さくします。

火災情報を知りたい時?

一九九番は、緊急専用電話番号です。火災発生時、場所など、火災に関する情報を知るための一九九番回線による問い合わせはご遠慮ください。問い合わせは、次のところへ。七五—一—一九(火災問い合わせ専用)

消防器の訪問販売にご注意

消防器の悪質訪問販売による苦情が、殺到しております。売り方は、法律が改正され、一般家庭にも消防器を備える義務があるといった方法と、消防署から来たとか、消防署の関係者だといった大変まぎらわしい方法で販売している業者があります。消防署では、消防器の販売は、

戸籍の窓口

(10月受付分)

出生おめでとうございます

子の名	保護者	部落
也(な おや)	佐藤 義弘	山崎部
市(の たかゆき)	井砂 義明	北町南
樹(か ずき)	佐藤 栄一	山崎部
季(み き)	名和 重利	宮北

結婚おめでとうございます

氏名	部落
武田 正男	三町東
大友 恵美子	川町東
菊地 博政	石母原
鈴木 美和子	保宮白
鈴木 満子	石原島
田辺 桂子	石原島
渡辺 聖治	石原島
小金 靖子	石原島

おくやみ申し上げます

氏名	年齢	部落
安藤 マサノ	86	前田
藤地 栄菜	62	第十一
戸田 マス	79	内南
賀賀 儀市	91	第八上
上村 孝市	86	宮町
佐藤 直七	36	第九
佐藤 直七	75	泉田



▲昨年の藤田幼稚園による防火パレード

伊達地方消防組合 中央消防署西分署

一切いたしておりません。まず、おかしいと感じたら、代金を支払う前に消防署へご連絡ください。八二—三一九〇、三六二—まで。

秋の火災予防運動

十一月二十六日〜十二月二日

人口と世帯

11月1日現在(前月比)10月中のうごき

男	5,782人(±0)	転入	22人
女	6,227人(+2)	転出	18人
計	12,009人(+2)	出生	5人
世帯数	2,897戸(-2)	死亡	7人

国民年金 納め忘れは ありませんか?



国民年金の第二期分までの保険料はもう納めましたか? 保険料を納め忘れてしまうと、万一事故の時、障害年金や母子年金など受けられないばかりか、将来、年金をもらえなくなり、以前納めた保険料もムダになる恐れがあります。

保険料は、納期内に必ず忘れずに納めるよう心がけましょう。

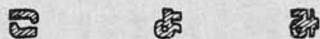
第三期分の納期限は、十二月五日です。

心配ごと相談日

場所: 役場二階相談室 (東側入口からお入り下さい)
時間: 9時~12時
こまったことや、相談ごとがありましたら、お気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。
[相談員]

- 11月25日(水) 菊地 平助・渋谷 愛子
- 12月5日(土) 吉田 三夫・長谷川ケン
- 12月15日(火) 阿部 俊恆・村上ミチ子

11月は、固定資産税(第四期)の納税の月です。納期内(11月30日まで)に納入しましょう。



- 11月 霜月(しもつき)
- 23日(月) 勤労感謝の日
- 小雪
- 26日(木) 火災予防週間
- 28日(土) 税関記念日
- 12月 師走(しわす)
- 1日(火) 歳末助け合い運動
- 4日(金) 人権週間
- 5日(土) 満月
- 8日(火) 大雪・針供養

公民館だより

国見町公民館
☎85-2676
(有) 4156

高齢者 婦人 運動会が行われる

町恒例の高齢者、婦人の運動会が、十月九日午前八時半から福祉センター前広場で開催されました。

心配された雨も、久しぶりの好天に恵まれ、約三百人の方が参加し、盛大に行われました。大会長の蓬田教育長のあいさつ、来賓の町長職務代理者八島



▲ウーマンパワーが爆発!! (綱引き)

助役、大戸三郎議長、佐藤忠美文教厚生常任委員長の祝辞があり、その後、準備運動のラジオ体操を行い競技に入りました。競技は、地区ごとに行われた。団体六種目、二人三脚風船割り、年令別の八十メートル走の個人種目が行われ、参加者全員スポーツの秋を楽しみました。



▲ドリブルもなかなかむずかしいですね (体力測定)

第三回綱引大会が行われる

第三回国見町綱引き競技大会が、十月二十八日午後七時から町民体育館で行われました。

男子八チーム、女子四チームのスポーツ愛好者が出場しました。

女子の戦いでは四分以上の綱引きが行われるなど、熱戦が繰り広げられました。

成績は次の通りです。

- ▽男子
 - 優勝 キヤロル
 - 準優勝 森西スポーツ
 - 第三位 徳北スポーツ愛好会
 - ▽女子



▲熱戦を展開した綱引き大会

- 優勝 泉田上
- 準優勝 徳江北部
- 第三位 徳南

ジョギングコース

設定記念

大会を開催

ジョギングコース設定を記念し、十月十日(体育の日)コースを二周する「町民ジョギング大会」を開催いたしました。

大会には小学生から一般まで約八十人が参加、走ろう会の先導で、一周二キロコースで行われました。

参加者の中には、小西長三郎さん(大町南、八十六歳)も参加し元気に完走、参加者の祝福を受けました。また、参加者全員が完走し、体育の日を楽しく過ごしました。

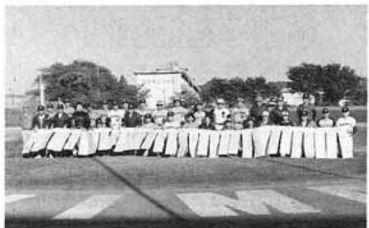


▲一斉に公民館前をスタート

マラソン野球大会を開催

町体協野球部では、本年度の納会を兼ね、初めてのマラソン野球大会を十一月一日、福島市の信夫ヶ丘球場で開催しました。町内各チームから、野球愛好者五十人が参加。赤軍・白軍の対抗戦で、午前九時、町体協会長の佐藤元一さんの始球式で試合が開始されました。

天候にも恵まれ、選手たちも今シーズン最後の野球を、思う存分楽しみました。試合は、午後三時三十分、三十回で終了、二十二対十五で白軍が勝利しました。



▲皆さん、お疲れ様でした!!

成人学級で 中央婦人学級

合同研修旅行



▲宮沢賢治記念館前で

秋もたけなわの十月二十八、二十九日の両日、成人学級、中央婦人学級生の合同による研修旅行が行われました。今年度は、初めての宿泊研修を計画、歴史と文学の里岩手路を訪ねました。

参加者二十二人は、公民館を七時二十分に出発、高速道路を一路花巻へと向かいました。最初の見学地宮沢賢治記念館を見学しました。

若くしてこの世を去った賢治の生涯を、遺品や「雨ニモマケズ」の手帳、詩集、手紙などの

展示物で参観しました。昼食後、あまり知られていない奥州合戦の終えんの地、陣ヶ丘古戦場跡、続いて東北最大の規模を誇る岩手県立博物館を見学し、第一目の研修を終え、宿泊地である雫石町鶯宿温泉に到着いたしました。

夕食の懇親会では、楽しいのど自慢なども披露され、学級生の一層の融和がはかれました。二日目は岩手県の地場産業を一カ所に集め、展示、即売及び手づくり工房の盛岡手づくり村を見学し、盛岡市郊外にある石川啄木記念館を見学しました。記念館は、岩手山の眺めが一望できる啄木の故郷浪民にあり、館内には啄木直筆ノート、詩集などのゆかりの品々が展示されており、新しい明日を夢に描き



▲手づくりせんべいのコーナーを見学

ながら、若くして生涯を閉じた啄木の功績を知ることができました。学級生は、すべての研修を終わり、窓ごとに深みゆく秋の景色をながめながら、無事公民館に帰って来ました。

青年学級で

研修旅行

去る十月九日、十一日にかけて青年学級では、二泊三日による研修旅行を実施いたしました。研修地は十和田、龍泉洞、宮古、秋の自然の変化を見学しました。

研修期間中天候に恵まれ、十和田湖の湖水の青さに感激し、遊覧船では湖畔からは知ることのできな姿を見ることができました。また、奥入瀬渓流では、紅葉が彩る変化に富んだ溪流美と、滝がおりなすコントラストに酔いしれました。

二日目は地底湖で名高い大鐘乳洞・龍泉洞に入場し、水深九十メートルの神秘の世界を見学しました。

宮古では、浄土ヶ浜から観光船に乗り、鋸の歯のように並んでいる岩塊の景観と、陸中海岸

の名物となっている無数のウミネコに、パンをさし出すとサアツと舞い下りて手から直接ついたり、観光客の人気を呼んでいました。

三日間の研修で東北地方の自然の変化を観察すること、学級生相互の親睦を図ることができ、楽しい旅行でした。ぜひみなさんも、青年学級へ参加してみませんか。

第五回町長杯争奪 ゲートボール大会



▲好試合を展開したゲートボール大会

第五回町長杯争奪ゲートボール大会が十月十六、十八日、二日間にわたり開催され、森山老人クラブBが初優勝しました。成績は次のとおりです。

- 優勝 森山老くBチーム
- 準優勝 山崎長寿会
- 第三位 藤田第一長寿会
- 石母田長寿会

中央婦人学級で 史跡めぐり



▲武家屋敷通りを散策（白石市）

中央婦人学級では、郷土を知ろう、を学習課題に、十月四日、白石市内の史跡めぐりを行いました。

町文化財保護審議会委員の菊池利雄さんの案内で、白石城跡、片倉家廟所、武家屋敷通りなど七カ所の史跡を見学してまいりました。

学級生十五人が参加、奥羽の重要な歴史の舞台となった白石城の詳しい説明を受け、有意義な学習会となりました。

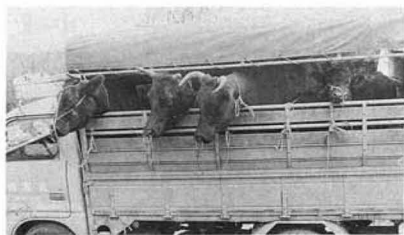
わだ い



モー君 なつかしの わが家へ

秋の色濃く漂う町宮牧場で、十月十二日、閉牧式が行われました。

五月二十五日の放牧以来、放牧した六十頭にこし夏生まれの十三頭を加えた七十三頭は、雄大な自然の中でのおんびりと過ごし、約五カ月間のヤマでの生



▲車に乗せられ、ヤマを去るモー君



▲小坂小で行われた稲刈り

活を終え、飼い主の手に引き取られ下牧しました。式には、高橋友義牧野組合長をはじめ、県や町の関係者、牧野組合員ら五十人が出席し、それぞれ牛が放牧されている間、一件も事故がなく、無事成長したことを喜びました。このあと、牛は次々にトラックに乗せられ、涼しい風が吹く秋の牧場をあとにしました。

小坂小学校で 稲刈り

秋晴れの好天に恵まれた十月十二日、小坂小学校では、全校生徒百三十九人が、稲刈りを行いました。

勤労体験的学習の一環として子供たちに勤労と収穫の喜びを味わってもらおうと、昭和五十九年から始まったものです。五月十一日、全校生で田植えを行い、この日の稲刈りと合わせたもので、赤坂斎小坂小PTA会長はじめ、PTAのお父さん、お母さんの協力を得て、子供たちは、歓声をあげながら作業を行いました。小坂小学校では、この後、稲こきをし、十一月十七日に行われる予定の「収穫祭」で、自分たちが作った米を、カレーライスで味わうとのことです。

森江野小学校で いもに会

秋晴れの好天に恵まれた十月十三日、森江野小学校と森江野幼稚園では、合同で「いもに会」を行いました。

小学校全校生徒百八十六人と園児二十六人を七グループに分け、材料のいもや野菜はグループで持ちより、手分けして思い思いに作って、舌づみを打っていました。なかには、何杯もおかわりをする子供たちもいました。また、この日、森江野小学校では枝豆の収穫、森江野幼稚園



▲みんなで協力しながら材料を煮込む

藤田保育所で 運動会

十月十五日、藤田保育所で、恒例の運動会が行われました。

この日は、どんよりとした曇り空で肌寒い一日でしたが、子供たちは、玉入れや宝ひろい、綱引きなどを元気いっぱい楽しんでいました。

つめかけたお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、

ではサツマイモ掘りがあり、それぞれ「いもに会」の食卓にのぼり、児童・園児たちは、自分たちで育て収穫した枝豆、サツマイモをおいしそうに食べていました。



▲父兄も大勢つめかけた保育所の運動会

編集日記

△秋の日はつるべ落としとありますが、本当日の暮れるのが早くなりました。五時過ぎともなると、かなり暗くなってきますが、最近、自転車の無灯火運転を見かけます。ドライバーからはともに見にくく、大変危険ですので、ぜひライトをつけて運転してもらいたいです。▽朝、晩めっきり寒くなりました。まもなく冬到来となりましたが、季節の変わり目、カゼなどひかえよう十分注意してください。(佐)